

○ 本校の概要

◇生徒数440名、学級数12学級、教員数23名  
 ◇特色ある教育活動としては、次の5点が挙げられる。①大田区人権教育研究協力校として、人権感覚を高めるための取組を、夜間学級や近隣の小学校とも連携を図りながら実践している。②「子どもの『生きる力』を育むプログラム～大田区における特色のある教育の推進～」事業実施校として、「いじめ防止プログラム」を実施し、生徒の自己肯定感の高揚を図っている。③町会及び関係機関と連携した防災・避難訓練（学校防災活動拠点訓練）の実施を通して防災・安全についての意識を高めている。④大田区不登校対策事業実施校として、教育センターや適応指導教室、小学校との連携を図り、不登校の改善や未然防止のための取組を進めている。平成28・29年度の大田区教育委員会教育研究推進校の取組を生かしつつ、体験的な活動内容を充実させ心豊かな生徒の育成を図っている。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者評価 コメント
プラン1 生きる未来社会を創造的に生	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化に対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々のコミュニケーション能力の育成を図っている。 論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。 学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。 他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。 体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	①外国語の観点別評価で「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」がAの生徒の割合 4:80%以上 3:60%以上80%未満 2:40%以上60%未満 1:40%未満 ②全国学力・学習状況調査の「自分には、よいところがある。」という問いに「当てはまる」または「どちらか」と、当てはまる」と答えた生徒の割合 4:80%以上 3:60%以上80%未満 2:40%以上60%未満 1:40%未満	3	◇外国語教育指導員が明るくフレンドリーに生徒に関わってくれるため、挨拶などを自分から交わす生徒も多い。 ◇ものづくり教育・学習フォーラムの競技会に生徒を参加させるなど、技術・家庭科の教員が力を入れて取り組んでいる。2年生は、製造業の11事業所で職場体験をさせてもらった。 ◇デジタル教科書の導入により、日常的にICTを活用する教員も増えてきたが、生徒用タブレットの活用はまだ不十分であり、推進していく必要がある。 ◇体力向上の取組は、保健体育科を中心に取り組んでいるが、学校全体で取り組んでいくという意識は少ない。	○自己評価は適正と考えます。 ○2年生の職場体験を実際に目の当たりに見る事ができました。 ○体育祭等で危険を伴うため、組体操が禁止されているようですが、昭和世代の者にとっては一般生活の中で運動神経が培われてきたように思われる。
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。 算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。 学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。 授業改善推進プランを、授業に生かす。	①数学の観点別評価で「数学の技能」がAの生徒の割合 4:80%以上 3:60%以上80%未満 2:40%以上60%未満 1:40%未満 ②保護者による学校生活アンケートで「学校は、子どもの能力を適切に評価し、学習意欲を高めている」という問いに「そう思う」または「どちらかというと思う」と答えた保護者の割合 4:90%以上 3:80%以上90%未満 2:70%以上80%未満 1:70%未満	2	◇夏休みと2学期末に面談を行っているが、学習面の指導を十分に時間を取ってできていない生徒もいる。 ◇ステップ学習に自分で取り組めない生徒も多く、十分に活用されていない。 ◇平日は、ほぼ毎日、土曜日は年に6回補習教室を開設した。各担任から参加の呼びかけはしたが、参加者が数人しかいない日が多かった。教科の教員と補習の講師の連携を図り、内容の充実を図りたい。 ◇1学期の取組を基に、授業改善推進プランを作成し、2学期以降の授業改善に生かしている。	○①の評価が低いのが気になりました。(3でも良いのでは?) ○自己評価は適正と考えます。 ○教師の負担があまりにも大きすぎないか。
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。 道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。 学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。 学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。 問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	①生徒による学校生活アンケートで「学校の規則や規律を守って生活している。」という問いに「そう思う」または「どちらかというと思う」と答えた生徒の割合 4:90%以上 3:80%以上90%未満 2:70%以上80%未満 1:70%未満 ②保護者による学校生活アンケートで「子どもの学校生活や学習の課題に、学校は適切に対応している。」という問いに「そう思う」または「どちらかというと思う」と答えた保護者の割合 4:90%以上 3:80%以上90%未満 2:70%以上80%未満 1:70%未満	3	◇小学校との連携が進み、授業規律の確立は図れている。学校行事や生徒会活動などをさらに充実させ、生徒の主体的な活動を推進しながら、規範意識の高揚を図っていききたい。 ◇道徳授業地区公開講座の他に、外部講師を招いた研修会を1回実施した。道徳授業地区公開講座については、参加者が少ないので、保護者や地域への案内を徹底していききたい。 ◇年に2回、学校生活調査を実施し、ストレス症状が強い生徒には担任が面談を行い、必要に応じてSCに繋ぐなどの対応をしている。 ◇1年生は「いじめ防止プログラム」を実施した。休み時間に学年教員が教室や廊下にいるようにするなど、未然防止の取組も実施しているが、目の届かないところもあり十分ではない。 ◇不登校については、全教員で情報を共有し、SCや適応指導教室などとも連携を図りながら、個々に丁寧に対応しているが、件数が多く、難しいケースもあり、さらなる取組が必要となっている。	○自己評価は適正と考えます。 ○社会のルールは家庭教育が中心に行うべきである。(大人が指針を示す方が良いと思う) ○不登校の数が多いたのが気になる。地域として何かできることはないか。
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。 給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。 体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	①生徒による学校生活アンケートで「部活動に積極的に参加している。」という問いに「そう思う」または「どちらかというと思う」と答えた生徒の割合 4:90%以上 3:80%以上90%未満 2:70%以上80%未満 1:70%未満 ②保護者による学校生活アンケートで「子どもは、健康や安全に気を配って生活できている。」という問いに「そう思う」または「どちらかというと思う」と答えた保護者の割合 4:90%以上 3:80%以上90%未満 2:70%以上80%未満 1:70%未満	3	◇年2回の「早寝・早起き・朝ごはん」月間に、保健だよりや学校便りや啓発を図っている。全国学力・学習状況調査の結果から、毎日朝ごはんを食べてく生徒の割合は約9割であった。さらなる取組が必要である。 ◇家庭科の授業のほか、給食便りや給食掲示板を使って、食育の推進を図っている。学校評価の記述からも、給食に対する保護者や生徒の関心が高いことが分かるので、さらに取組を工夫していききたい。 ◇多くの教員が部活動指導に熱心にあたっている。生徒アンケートで、「部活動に積極的に参加している」と回答している生徒も加入生徒の9割を超える。	○自己評価は適正と考えます。
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりまします。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。 授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。 各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。 校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	①生徒による学校生活アンケートで「分かりやすい授業が行われている」という問いに「そう思う」または「どちらかというと思う」と答えた生徒の割合 4:90%以上 3:80%以上90%未満 2:70%以上80%未満 1:70%未満 ②保護者による学校生活アンケートで「施設・設備の整備・修理は適切に実施されている」という問いに「そう思う」または「どちらかというと思う」と答えた保護者の割合 4:90%以上 3:80%以上90%未満 2:70%以上80%未満 1:70%未満	3	◇授業公開時のアンケートは、教員室で回覧し、授業改善に生かしている。学校ホームページなどを活用し、参観者が増えるように周知方法の改善を図りたい。 ◇校内研修会の研究授業は年に2回、6教科で実施し、研究協議会で主任教諭が助言・支援を行った。日常の授業を相互に参観し合える環境を整え、OJTの充実を図っていききたい。 ◇各教員が一人一回以上、区内の小中学校の研究発表に参加している。全ての学校の発表内容を共有できるように、研究紀要の供覧を確実に実施していききたい。 ◇生活指導部会時間に特別支援の必要な生徒の情報を共有している。また、通級指導学級の教員に定期的に訪問してもらうなど、連携を図っている。来年度はサポートルームが開設されるため、その準備を進めている。	○自己評価は適正と考えます。
プラン6 学校・家庭・地域とも進める地域教育	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。 地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。 学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。 青少年・PTAとの連携や生徒会活動の推進を通して、生徒のボランティア参加の機会を充実させる。	①ボランティア活動や地域行事に参加した生徒の割合 4:90%以上 3:80%以上90%未満 2:70%以上80%未満 1:70%未満 ②保護者による学校生活アンケートで「学校の様子やHP・メールや学校からの案内プリント等で知ることが出来る。」という問いに「そう思う」または「どちらかというと思う」と答えた保護者の割合 4:90%以上 3:80%以上90%未満 2:70%以上80%未満 1:70%未満	2	◇HP担当者が定期的に更新をしている。学年の様子を伝えたり、学校からのお知らせを掲示するなど、公開する情報を増やしていくため、担当者を複数名にした。 ◇地域連絡協議会では、管理職、分掌主任、学年主任が出席し、学校の状況や生徒の様子を伝えている。さらに、スライドで学校の様子を伝えるなど、工夫をしていききたい。 ◇学校支援地域本部には、和太鼓部が地域行事に参加するときなどに支援をいただいている。本部会議を開催するなどして、支援していただく取組を充実させていきたい。 ◇地域清掃への参加者は多い月は80名を超えた。和太鼓部、吹奏楽部、軽音楽部は地域行事で演奏する機会を頂いている。ボランティアの参加者も少数ではあるが、どの行事にも必ず数名は参加している。教員の働き方改革とのバランスを取りながら充実させていく。	○いつもありがとうございます。大田区等が主催しているイベント等にも積極的にボランティアとして参加していただけたとありがたいです。 ○自己評価は適正と考えます。 ○学校からの通知について、HPの充実などデジタル化の推進が必要であると考える。